

## 脳神経内科・外科が連携 脳卒中診療を拡充へ

札幌白石記念病院

札幌白石記念病院（白石区）脳神経内科は、脳神経外科の協力のもと、脳卒中の診療を拡充・強化。脳血管内カテーテル治療や超音波検査による脳梗塞の確定診断など、急性期治療から適切な再発予防に向けた治療プロセスを確立した。

日本神経学会は2017年9月に、標榜診療科名を神経内科から脳神経内科に変更。神経難病だけでなく、脳卒中、認知症、てんかんなど多岐にわたる疾患を対象としたことで、高齢患者さんを中心にニーズは高いが、脳卒中を診る脳神経内科医は、関東以西に集中しており、北・東日本には数少ない。

こうした中で、岩手県立中央病院脳神経内科で数多くの脳血管内治療を手掛けてきた高橋賢医師を迎え、1月に脳神経内科を開設した。4月に



倉内麗徳医師（左）と高橋賢脳卒中センター長が診療を担当している

は、函館新都市病院で脳神経内科医を務めた倉内麗徳医師が着任し、2人体制にすると共に、高橋医師を脳卒中センター長に任命し、診療を拡充・強化した。

両医師共に脳卒中専門医、脳神経血管内治療専門医の資格を有し、内科・外科の領域を超えた診療が特長。脳神経外科と連携して、脳梗塞をはじめ、くも膜下出血、未破裂脳動脈瘤など、全ての脳血管疾患のカテーテル治療を行っている。

高度な技術を生かした超音

波検査に力を入れており、経胸壁心エコーだけでなく、頸動脈エコー、経頭蓋エコー、経食道心エコー、下肢静脈エコーなどを駆使して確定診断。適切な再発予防治療を導入している。

同病院は、2013年の循環器内科を皮切りに、心臓血管外科、腎臓内科、血液浄化センターを順次開設。4月からは、発作性心房細動を対象に、従来のアブレーション治療を進化させた内視鏡下レーザアブレーションアブレーションを開始している。脳梗塞の主な原因の一つとされる心房細動を循環器内科と連携して治療にあたることで、一層の診療機能充実が期待できる。

「手術を要する心疾患が見つかった場合も、心臓血管外科と連携し、救急対応から再発予防のための外科治療まで、迅速に完結できる」と高橋センター長は話す。

今後は各診療科との連携をさらに強固にし、個々の患者さんに見合ったオーダーメイド治療にも取り組む考えだ。